



# サーキュラー都市・薩摩川内市

## ●サーキュラーパーク九州（株）の将来構想（2030年）



提供：サーキュラーパーク九州（株）

## Outline 人と経済が循環するまちづくり（サーキュラー都市）を目指す

### 【背景・経緯】

少子・高齢化や人口減少に伴う経済の縮小、SDGs・カーボンニュートラルといった潮流に対応した、持続的な発展を目指す。工業団地（2020年「川内港久見崎みらいゾーン産業立地ビジョン」を策定）の整備、九州新幹線や高規格道路の整備等の交通利便性にも恵まれ、重要港湾川内港の高い物流ポテンシャル等、経済のグローバル展開も見据える立地にある。また、独自に自治会（546自治会）、地区コミュニティ協議会（48地区）など自治組織も整い、住民参加型の実証事業も行いやすいフィールドを有する。

2021年、九州電力（株）川内（火力）発電所の老朽化による廃止の発表を受け、2022年2月「川内発電所の跡地活用に関する基本協定」を踏まえて同年7月「サーキュラーパーク九州」構想の発表に合わせて「サーキュラーパーク九州の実現に向けた連携協定」を産官学の5者（薩摩川内市、九州電力（株）、（株）ナカダイホールディングス、（株）鹿児島銀行、早稲田大学）で締結した。

### 【実施方針】

2021年に「薩摩川内市未来創生SDGs・カーボンニュートラル宣言」を行い、社会、環境、経済の3側面における統合的な取組と、2050年までのカーボンニュートラルの実現を目指すことを発表。内閣府のSGDs未来都市にも選定（2022年）され、多面的な取組を推進している。2025年3月策定予定の第3次薩摩川内市総合計画 前期基本計画の推進を補完する「薩摩川内スマイルアクション50（市長マニフェスト）」へサーキュラーエコノミーへ取り組むことが明記されている。スマイルアクション50のキーワードとして、「サーキュラー都市環境」「サーキュラー都市経済」の両側面から推進するという方針が示されている。

## Point① サーキュラーパーク九州に伴走しながら庁内横断的に施策を展開

2023年7月には九州電力（株）と（株）ナカダイホールディングスとの共同出資による合併会社サーキュラーパーク九州（株）が設立された。取組としては、①リソーシング事業：再資源化、廃棄物削減、リサイクル化、脱炭素化等を提案、②ソリューション事業：産官学のネットワークを生かした研究開発やコンサルティング、③体験事業：来訪者や市民向けのワークショップや宿泊施設等のサービスの提供を柱に据えて、短期・中長期的な時間軸を併せもって、地域産業の持続的成長や市民の意識変容を促すこととしている。2024年4月よりリソーシング事業の操業を開始し、適宜、地域内外の民間企業や大学（鹿児島大学等）とも事業実施に向けた連携協定を結びながら、事業展開を図る。

薩摩川内市では同社に伴走しながら、官民一体での地域ブランディングにつなげたい考えで、部局横断的な連携体制（未来政策部 企画政策課、市民安全部 環境課、経済シティセールス部 産業戦略課等）を構築し全庁的に「サーキュラー都市・薩摩川内市」の実現に向けた取組を推進している。

## Point② 資源循環促進に向け、住民参加型の実証事業を各種展開

市の単独事業である「SDGsイノベーショントライアルサポート事業」では、薩摩川内市をフィールドとする先端技術等を活用した実証実験を全国から公募している。サーキュラーエコノミー関連では、花王（株）と（株）ナカダイホールディングスによるトイレットペーパー製品のプラスチック包装容器の資源循環促進に向けた分別回収モデルの検討や、サーキュラーパーク九州（株）の廃食油の資源循環促進に向けた分別回収モデルなどの実証実験等を実施した。また、経済産業省委託事業（自治体における資源循環システムの構築に向けた実証事業）では、一般廃棄物（粗大ごみ）の排出状況の把握や処理段階における再資源化方法、事業性について実証を実施した。

## Point③ 小中学生向けプログラムを授業に取り入れ市民への浸透を図る

市内の小中学生や教職員を対象として、サーキュラーパーク九州（株）の資源循環工場の見学や資源循環をテーマとするワークショップ等を組み合わせたサーキュラー研修（エデュケーション）事業を実施している。

- 川内（火力）発電所跡地に立地するサーキュラーパーク九州（株）の工場外観
- サーキュラー研修事業の様子



提供：サーキュラーパーク九州（株）



提供：サーキュラーパーク九州（株）